

# 図書室月報

2021年(令和3年)7月5日

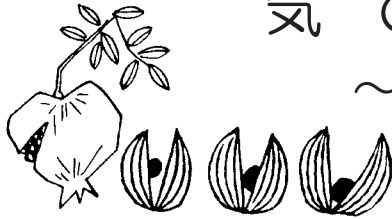
第698号

〈図書室のつどい 参加者の感想〉

## “気”で描くという自然との一体感

～『水墨画入門』を聴講して～

佐藤 寛



旅先などで幻想的風景に出会うと、思わず「まるで水墨画みたいだ!」と、ため息を漏らします。おそらく、それは遭遇した風景から、郷愁と安らぎを感じるからだと思います。普段、私は書道の仕事をしていいますが、そんな風にスーッと引き込まれる水墨画を、スラスラ書けたらいいなと、常々思っておりました。そんな折り、公民館より「水墨画入門」講座の紹介を受け、即座に聴講手続きをしました。

当日は、生憎、大荒れの天気で、参加者も少ないのではと思いましたが、会場には約40名、人気の高さが窺えました。

講師は、学習院大学の島尾新先生で、水墨画の著書も上梓しておられます。私の水墨画のイメージは、「難しくとっつきにくい」で、聴講の申込みはしたものの、最初は少し不安でした。すると先生は冒頭、何やら怪しいヒゲぼうぼうの老人の水墨画をモニターに映し、「皆さん、この絵をどう思いますか?すぐく気持ち悪いですよ。でも実は、すごい水墨画の技術が端々に沢山詰まっているのです。この講座を聴き終わる頃には、それが理解できるようになっています」とつかみは、バツチリ!その後、ぐいぐい引き込まれてゆきました。水墨画を知らない素人にもわかり易いように、中国南宋時代の古い作品や、伊藤若冲・長谷川等伯・白隠などの日本の画家・高僧の作品を、どこが素晴らしく特筆すべき点なのかを、丁寧に解説して頂きました。又、筆の技法については、東洋画と西洋画における筆致の違いを説明され、水墨画のスピード感・躍動感はこのからきていることを改めて納得しました。「アッ」という間の2時間でした。

興味深かったのは、質疑応答での、「水墨画を描く

ときの理想的な向き合い方」の回答でした。島尾先生は、「筆先で描くのでは無く、心に浮かんだものが直接筆先を動かして描くのが理想」と語られました。前者を「意」、後者を「気」と呼ばれていたのも印象的で、「気」で描いてゆくと、やがて「白い紙面が、スーッと抜けてゆく感覚となる」とか。想像ですが、自然の風景と、自分の心が一体となる事かと思えます。私もいつかそのような心境になってみたいものです。また、自分の思いどおりには、なかなか描けない点については、「紙と対話しながら、進めてゆくのが良い」と。失敗の中に発見があり、それを変化させ再度トライ。

その繰り返しにより、心地良い充実感を生むのだと思います。また、描く対象も重要で、「山水の風景を、心の中に形成せねばならない」と。つまり、見たままの風景ではなく、想像をプラスし独自の「心象風景」を持つべきとのことです。そのためには、日頃から見る眼を養う事も、肝要と思いました。

人類の絵画史は、2万年前の有名なラスコー洞窟壁面まで遡りますが、薪の煤が使われており、その後、煤は墨に姿を変え、島尾先生が紹介されたような数々の有名な水墨画や、書作品という形で人類の歴史を記録し続けてきました。水墨画に親近感を覚えるのは、このように墨が生活に根ざした身近な存在であり、また、太古からのDNAが同調しているからなのかも知れません。

今度、硯面でゆっくり墨を磨り、穂にたっぷり墨を含ませ、そっと画仙紙の上に置き、優雅な空想の旅に出ることにしようっと!

自分の好きな雪解けの風景に、想像でお地藏さまと「ふきのとう」なんかを添えたりして。。。

ブッククラブから

古川日出男著

# 『ベルカ、吠えないのか?』

— 代々の犬達から人間の歴史を見るといふ発想 —

東健太郎



3月で完全リタイアし、これからは地域に目を向けていこうと思っていたところ、この講座の存在を知りました。小説をあらかじめ指定し、講師も毎回違い、無料というのは魅力ですが、こういうシステムはあまり見かけたことがないので、国立市独自で発展してきたのかも、とも思いました。

私は自分の興味の持ち方は「狭く、深く」だと思っているのですが、女房に言わせると「狭く、浅く」だそうです。深さ如何はともあれ、私の「幅」を広げるのにも、役に立ちそうです。

さて、本作です。作者古川日出男氏のことを全く知らず読んだのですが、時制がわかりづらく、そのため全体の構成もよくわからず、曖昧なまま終わってしまいました。

ただ、各章における描写は明確で映画のシーンのようでもあり、印象的な部分が多かったです。軍用犬、麻薬探知犬については知らないことばかりで、エンターテインメントとしてもいける、映画にしたら面白いだ

ろうな、とも思いました。

ネットで感想を読むと大半の方が評価していて、そこで初めて時間軸がわかりました。ソ連が崩壊する年の1991年のことが現在進行形で描かれ、1943年から直前の1990年までの犬の歴史が神の視点で遡って描かれ、所々挿入されるのです。目次を見ると、これがよくわかるようになっていきます。

キスカ島に4頭の犬が残されたという史実から、犬たちの恐らく10世代以上の系図を想像し、アメリカからソ連まで散った後、その一部は邂逅する、などという実にスケールの大きい話を創造するのは並の才能ではないです。

彼ら犬たちには名前があり、人間にはありません。犬たちが主役で、多くの世代を経る犬から人間の歴史を振り返るといふ構造が出色です。

古川日出男とはどんな人なのだろうとyoutubeのインタビュー映像を見てみましたが、何か強い文学的衝動を抱えている方のように見えました。本作の後も

次々と話題作、問題作を発表しているようですが、その衝動が、限界を突破する推進力となっているのでしょう。それらを読まないでは彼の全貌を捉えることはできないと思いました。

いつかまた、彼の最新作を読む日が来たとして、本作からどれだけ変化しているのかに注目し、楽しみたいと思っています。

くにたちブッククラブ

— 人生、野を越え山こえて —

高橋弘希『指の骨』

(新潮文庫)

講師 佐藤泉  
(青山学院大学・日本近代文学)

とき 7月8日(木)  
夜7時半~9時半

ところ 公民館 地下ホール  
申込先 公民館 ☎(572)5141

\* 次回は9月9日(木)  
川端康成『山の音』  
(新潮文庫)です。



新着図書から

〈総記〉 アーカイブの思想 根本彰(みすず書房) 010	〈哲学 心理学 宗教〉 漢文で知る中国 加藤徹(NHK出版) 159 危機の時代の宗教論 富岡幸一郎(春秋社) 160	〈歴史〉 大航海時代の日本人奴隷 ルシオ・デ・ソウザ(中央公論新社) 209 1964年と2020年くらべて楽しむ地図帳 松井秀郎(山川出版社) 291	〈社会科学〉 たのしい知識 高橋源一郎(朝日新聞出版) 304 アマルテア・センの思想 ローレンス・ハミルトン(みすず書房) 311 ベネズエラ 坂口安紀(中央公論新社) 312 ウイリスが変えた世界の構造 副島隆彦(日本文芸社) 319 落語でわかる「民法」入門 森章太(日本実業出版社) 324 ガザ、西岸地区、アンマン いとうせいこう(講談社) 329 人新世の「資本論」 斎藤幸平(集英社) 331 東京の多様性 滝久雄・編著(日経BP日本経済新聞出版本部) 361 社会保障入門 社会保障入門編集委員会・編(中央法規出版) 364 働く人を守る! 職場六法 岩出誠(講談社) 366 同性婚論争 小泉明子(慶應義塾大学出版会) 367 わたしたちが沈黙させられるいくつかの問い レベッカ・ソルニット(左右社) 367 絶望死のアメリカ アン・ケース(みすず書房) 368 震災と死者 北原糸子(筑摩書房) 369 世界が注目する日本の介護 加藤忠相・編著(講談社) 369 教師の仕事がブラック化する本当の理由 喜入克(草思社) 374
------------------------------------	---	--	--

餅と日本人 文化人類学のエッセンス 安室知(吉川弘文館) 383 〈自然科学〉 最新科学が映し出す火山 萬年一剛(ベストブック) 453 学名の秘密 ステイヴン・B・ハード(原書房) 460 生態学者の目のツケドコロ 伊勢武史(ベレ出版) 468 動物園・その歴史と冒険 溝井裕一(中央公論新社) 480 金閣を焼かなければならぬ 内海健(河出書房新社) 493 父と娘の認知症日記 長谷川和夫(中央法規出版) 493 結核がつくる物語 北川扶生子(岩波書店) 498	〈工業〉 そこに工場があるかぎり 小川洋子(集英社) 509 料理と利他 土井善晴(ミシマ社) 596	〈産業〉 食料危機 井出留美(PHP研究所) 611 空想居酒屋 島田雅彦(NHK出版) 673	〈芸術〉 アートがわかると世の中が見えてくる 前崎信也(IBCパブリッシング) 702 伝統芸能の革命児たち 九龍ジョー(文藝春秋) 772 スクリーンが待っている 西川美和(小学館) 778	〈言語〉 対抗する言語 柿原武史・編著(三元社) 802 辞典語辞典 見坊行徳(誠文堂新光社) 813	〈文学〉 今度生まれたら 内館牧子(講談社) 91 元彼の遺言状 新川帆立(宝島社) 91 終の暮らし 曾野綾子(興陽館) 91 旅する練習 乗代雄介(講談社) 91 「原っぱ」という社会がほしい 橋本治(河出書房新社) 91 何とかならない時代の幸福論 ブレイディみかこ(朝日新聞出版) 91
---	---	--	--	---	---

図書室のひと

かぐわしき 植物たちの秘密



お話 田中修(甲南大学特別客員教授)

私たちの身の回りには、ハーブや野菜、果物、野草などたくさん植物の香りが漂っています。若返りに効く香りって？香りがウイリスや細菌を撃退する？さんねんな香りに秘められた真実とは……？子ども向けラジオ番組で「植物の先生」としても活躍される田中さんに、科学的根拠に基づきながら、香りの秘密をお話いただきます。目には見えない、けれど「ただもの」ではない「香りから、植物のおもしろさに迫りましょう。

※田中さんはオンライン中継でお話になります。

〈田中さんの本〉表題作(山と溪谷社)、『植物はすごい』(中公新書)、『植物のあっぱれな生き方』(幻冬舎新書) ほか多数

とき 8月21日(土) 昼2時〜4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 7月20日(火)朝9時〜  
公民館 ☎(572)5141

\*発熱や体調の悪い方は、参加を遠慮ください。また、マスクの着用をお願いします。

図書室のこころ

# 発達障害サバイバル

「あたりまえ」がやれない僕らがどうにか生きていくには

お話 借金玉（借金玉）（不動産営業・ライター・作家業）

皆さんは、整理整頓や電気料金の支払いなど「あたりまえ」のことができず悩んだことはありませんか？ 発達障害者や発達障害グレーゾーンの多くのの方は、この「あたりまえ」の生活が思い通りにいかない難しさを抱えています。

発達障害当事者である借金玉さんは、この障害を「治す」のは現実的ではなく、障害を抱えたまま人生をうまくやっていく方法を作り出す以外に、結局のところ選べる道はない、と自身の経験から考えます。そして、日々の暮らしのなかで工夫をし、なんとか生き抜く「生活術」を編み出し、実践しています。

今回はその「生活術」についてお話いただきます。できない理由や当事者が感じている難しさを知り、発達障害を抱えて生きることへの理解が深まる機会としていきます。

〈借金玉さんの本〉『発達障害サバイバルガイド』「あたりまえ」がやれない僕らがどうにか生きていくコツ47』（ダイヤモンド社）ほか

とき 7月24日(土)朝10時～12時

ところ 公民館 3階講座室

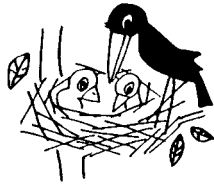
定員 会場受講15名・オンライン受講30名

(申込先着順。会場は市内在住の方優先)

申込 7月8日(木)朝9時～22日(土)夕5時

会場受講：公民館 ☎(075)514-1

オンライン受講：sec\_kominkan@city.kunitachi.lg.jp



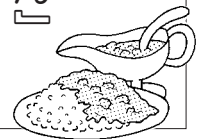
受講申し込み項目  
【件名】講座名【本文】①氏名②ふりがな③住所④電話番号  
※参加方法の詳細は、前日までにメールいたします。  
※当日、参加者側の環境による接続や音声の不備についての問合せには対応できませんので、ご了承ください。

〈私の本棚から 第4回〉

柚木麻子著

## 『ランチの アッコちゃん』

上野 千晴



この広い東京のどこかで、今日もアッコさんは、誰かの心と胃袋をあたたかく満たしているように思えてならない。「なんだかちよっぴり元気が足りないな。」そんな時にはこの本を開いてみて欲しい。きっと、アッコさんの宝物をちよっただけ分けてもらえると思うから。

東京のオフィスビル街の一角に、雲と木社はある。営業部派遣社員の澤田三智子は、四年付き合った彼に別れを告げられたばかり。彼にも指摘されたが、NOが言えないYESマンの自分に心底嫌気がさしていた。落ち込む三智子は、昼ごはんのお弁当を食べる元気も湧いてこないでいた。そんな時、上司の黒川敦子、通称・アッコさんに、来週一週間の昼食を取り替えっことして欲しいと提案される。アッコさんのランチルーティンと三智子の作るお弁当を交換しようという事だ。半ばアッコ女史に押し切られ、またはNOと言えない三智子。気乗りのしないまま迎えた月曜日。お弁当の代わりに手渡されたポチ袋には、簡単な地図と千円札一枚。さあ、ここからアッコちゃんの魔法劇場の幕開けである。アッコさんは、「行けば分かるから」と、

全てを細かく教えない。一見つつけんどんな態度のように思えるけれど、それこそアッコさんがアッコちゃんたる所以だと分かる。その人の感性や感覚を大切に、気付きの可能性を持たせてくれている。人を信じる余裕がある格好良さ！毎日、指定されて行く場所場所で、三智子はアッコさんの多面的な人間性を知ることになるのだ。作ったお弁当にも正直な感想と評価をちゃんとくれる。一週間が過ぎる頃には、三智子と読者は、すっかりアッコさんの虜である。

物語の中の人物だとわかっていても、「こんな上司がいたら」「アッコさんと一緒に働きたいな」そう思わせてしまうなんとも魅力的な人物なのだ。仕事が出来て、抜群の行動力と知性を持ち合わせている。アッコさんの、人を惹きつけ心動かす魅力の源は、食事。ランチルーティンは、誰と何処で何を食べるのかも大切だと教えてくれる。食事には目には見えない魔法がある。口にするもの一つで人は変わる。いろんな人が言うけれど、食べる事は生きる事なのだ。

本を閉じる頃には、スパイスの利いたカレーや温かいポトフが食べたあぐなうたっている。体の中から元気が湧いてきたら魔法に掛かっている証拠。そしてアッコさんが恋しくなる。そんな人にはぜひ、「3時のアッコちゃん」をお薦めしたい。(双葉社)